

「日中交流集中月間」に、「イオン北京環境提議」に基づき両国が親交を深めます
みつうん

第1回「中国北京市密雲植樹」実施<<10/15(土)>> 武漢市の小中学校へ太陽光発電システムを寄贈<<10/16(日)>>

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役、以下、当財団）は、10月15日（土）、中華人民共和国（以下、中国）北京市密雲において、3年計画の1回目となる「中国北京市密雲植樹」を実施します。また16日（日）に、武漢市の小中学校5校への太陽光発電システムの贈呈式を行います。

当財団は、世界が直面する環境問題に取り組むとともに、日中のさらなる友好関係の促進のため、1993年から「日中環境国際シンポジウム」を開催しています。昨年9月、当財団設立25周年を迎えたことを機に、北京市で4回目となる同シンポジウムを開催し、総括として北京市人民政府とともに「イオン北京環境提議」を発表しました。同提議では、2016年からの3年間、植樹活動の継続と環境教育のさらなる推進を行うことを合意・発表しました。同提議に基づき、中国北京市密雲植樹と太陽光発電システム寄贈を実施します。

また、本年10月・11月は、在中国日本国大使館が定める「日中交流集中月間」であり、北京市と湖北省武漢市にて日中間の交流イベントが実施されます。さらに本年は、広東イオン1号店の開業と、青島イオンの設立から20年の節目の年でもあります。

当財団はこれからも、いのちあふれる美しい地球を次代の子どもたちへ引き継ぐため、環境保全活動に積極的に取り組んでまいります。

10月15日(土) 第1回「中国北京市密雲植樹」

密雲は北京市北東部に位置しており、同市で利用する水量のうち3分の2を供給する、華北地方最大の密雲ダムを有しています。当財団は、同ダムの周辺住民ならびに北京市民の水資源を確保するため、水源涵養機能(※)の向上を目指し、ダム周辺で植樹を行います。本年は日中両国のボランティア800名の皆さまとともに、地域に自生する7,500本の苗木を植えます。

(※)水源涵養機能:森林の土壌が降水を貯留し、河川や湖沼に流れ込む水量を平準化して洪水や渇水を防ぐ機能のこと

日時 2016年10月15日(土) 9:30~11:30
場所 北京市密雲区東邵渠鎮史長峪村
本数 7,500本
参加者 800名
面積 3.0ha
樹種 シロマツ、華山松、コノテガシワ、アカマツ、五角カエデ、牡丹(6種)
主催 公益財団法人イオン環境財団、北京市人民政府外事弁公室、北京市園林緑化局、北京市密雲区人民政府
後援 在中国日本国大使館、中国国家林業局
協力 北京市園林緑化国際合作項目管理弁公室、北京市密雲区人民政府外事弁公室、北京市密雲区園林緑化局、北京林学会、在中国イオン各社
出席者 北京市人民政府 副市長 林 克慶 様
(予定) 中国国家林業局国際交流センター 副主任 劉 立軍 様
北京市園林緑化局 副局長 朱 国成 様
在中国日本国大使館 公使 林 禎二 様
公益財団法人イオン環境財団 理事長 岡田 卓也
イオン株式会社 副社長 若生 信弥
永旺(中国)投資有限公司(イオン中国本社) 董事長兼総裁 羽生 有希

10月16日(日) 武漢市における太陽光発電システム贈呈式

当財団は、設立20周年の記念事業として、2009年より再生可能エネルギー活用の啓発・普及と環境教育を目的に、日本・マレーシア・ベトナムの中学校へ太陽光発電システムを寄贈してきました。これまでに3カ国で35校に寄贈しています。

このたび「イオン北京環境提議」に基づき、環境教育の推進を願い、武漢市の小中学校5校に寄贈します。

日時 2016年10月16日(日) 14:00~15:00
寄贈先 光谷第九小学校、育才行知小学校、漢陽区玫瑰園小学校、洪山実験外国語学校、江夏区何堰村小学校
場所 武漢市光谷第九小学校
主催 公益財団法人イオン環境財団
共催 永旺(中国)投資有限公司、永旺(湖北)商業有限公司(イオン湖北)
後援 在中国日本国大使館、武漢市人民政府外事弁公室
出席者 武漢東湖高新区 書記 胡 立山 様
(予定) 武漢市人民政府外事弁公室 主任 安 衛東 様
寄贈先5校校長および生徒代表者
本年「日本 中国 ティーンエイジ アンバサダー事業」に参加する日中の高校生
公益財団法人イオン環境財団 専務理事 林 直樹
永旺(湖北)商業有限公司 総経理 椎名 孝夫
永旺夢楽城(湖北)商業管理有限公司(イオンモール湖北) 総経理 村上 征典

ご参考

【中国における公益財団法人イオン環境財団の活動について】

《植樹活動》

■ 1998年～2010年「万里の長城・森の再生プロジェクト」

「日中環境国際シンポジウム」での提案をきっかけに、当財団は1998年から「万里の長城・森の再生プロジェクト」を開始しました。継続的な植樹活動を通じて累計約15,000人の日中ボランティアの方々のご協力のもと、2010年には植樹本数が100万本を超えました。その後、2013年には育樹活動として、木々のメンテナンスなどを行っています。



■ 2005年～2007年「青島市ラオ山ダム植樹」

青島市にあるラオ山ダムは、黄河から水を引き、長く同市の水源として利用されてきました。同ダムがその役割を終えたことに伴い、青島イオンが青島市政府から要請を受け、同ダムを市民の憩いの場とするため、青島市城陽区人民政府とともに植樹を行いました。3,493名の日中両国のボランティアの方々が、クロマツ、マルバハゼ、カエデ等30,000本の苗木を植えました。

■ 2008～2011年「山東省烟台市植樹」「山東省威海市植樹」

青島イオンは2008年7月、烟台市で3号店をオープンしました。それを機に烟台市から要請を受け、近郊の辛安河の水源涵養林の育成を目指して植樹を行いました。日中両国のボランティアの方々2,519名が25,000本を植えるとともに、市民同士での日中友好を深めました。また同様に威海市において、日中両国のボランティアの方々1,400名が12,000本を植えました。



■ 2014年「蘇州市植樹」

蘇州市が擁する中国第三の大きさを誇る淡水湖「太湖」周辺は護岸工事などの開発により環境破壊が進んでいましたが、同市による生態系の修復および環境再生のスキームが進行中です。当財団はその計画に賛同し、930名のボランティアの方々と湖畔の埋め立て地に30,000本の植樹を行いました。東山鎮固有種であり他の地域では見られない柑橘系樹の植樹や育樹を実施し、地域の環境意識の向上を願うとともに、東山鎮の古い町並みや文化を保護し後世へ残します。



《環境教育》

■ アジア学生交流環境フォーラム

当財団は2012年より、グローバルな視野で活躍する環境分野の人材育成を目的に、アジアの大学生を対象に「アジア学生交流環境フォーラム (Asian Students Environment Platform : ASEP)」を毎年実施しています。中国では2014年に開催し、清華大学(中国)、早稲田大学(日本)、高麗大学校(韓国)、マラヤ大学(マレーシア)、ベトナム国家大学ハノイ校(ベトナム)の5カ国80名が参加しました。教育プログラムは清華大学監修、早稲田大学協力によるもので、「水と人」をテーマに、北京、天津、内モンゴル、成都などでフィールドワークを実施し、生物多様性について考察を深めました。「ASEP」には2016年の第5回(日本開催)までに7カ国375名の大学生が参加しています。



【武漢市政府からの表彰について】

当財団の理事長 岡田卓也(イオン株式会社名誉会長相談役)は2015年、武漢市国際諮詢顧問団一員として武漢市の発展に尽力していることを認められ、武漢市政府から「黄鶴友誼賞」を授章しました。

【「日中環境国際シンポジウム」について】

当財団は、地球環境の保全が世代と国境を超えた課題であることをふまえ、日中のさらなる国際協力を促進するため、1993年から4回にわたり「日中環境国際シンポジウム」を開催しています。

・第1回（1993年）：テーマ「環境問題と人間社会」

「地球の未来を守るために」という共通視点のもと国際協力を促進するため、全体会議および分科会において活発な討論が行われました。海部俊樹元首相が出席されたこの回では、民間レベルにおける環境協力についての大枠指針がまとめられるとともに、シンポジウムの継続的な開催が合意されました。



・第2回（1995年）：テーマ「環境問題と人間社会」

撫順市での事前実地調査を討論資料とし、特に大気汚染対策に絞って両国の環境協力推進を合意しました。また、廣中和歌子元環境庁長官が出席され、都市の経済発展に伴う環境問題や環境保全の技術、環境法などについて討議が交わされました。本シンポジウム内で、環境保全の必要性和重要性を世界に向けて発信するため、「万里の長城・森の再生プロジェクト」が提案されました。

・第3回（1997年）：テーマ「環境問題と人間社会」

海部俊樹元首相が出席され、経済社会の持続的発展に向けて、エネルギー対策と環境保全、水資源及び水環境の確保、経済、社会及び環境が調和する発展戦略について議論されました。また、本シンポジウムを契機に「万里の長城・森の再生プロジェクト」の準備が始まりました。



・第4回（2015年）：テーマ「国際社会における環境改善と社会の持続的発展」

グローバルに活躍する両国の専門家・有識者が一堂に会し、環境改善と社会の持続的発展についての討議が交わされました。また、本シンポジウムの総括として、世界に向けて「イオン北京環境提議」を発表しました。



「イオン北京環境提議」

2016年～2018年の3年間で、下記に取り組むことを表明

1. 新たな植樹活動の取組みを通じた日中ボランティアの交流
2. 日中青少年環境教育活動を協同で取り組み環境保全に関する交流の促進

【「日中交流集中月間」について】

本年10月・11月は、在中国日本国大使館が定める「日中交流集中月間」です。北京市と湖北省武漢市において、中国政府関連機関、日本政府関連機関、民間企業等による数々の日中間の交流イベントが実施されます。イオンは日中のさらなる親交の促進を願い、同月間に合わせてさまざまな取り組みを行います。

■「日本 中国 ティーンエイジ アンバサダー（高校生交流）事業」（公益財団法人イオンワンパーセントクラブ）

公益財団法人イオンワンパーセントクラブは、「諸外国との友好親善の促進」を事業目的の一つとして掲げ、中国と日本の高校生が交流する「日本 中国 ティーンエイジ アンバサダー（高校生交流）事業」を実施しています。本年7月、北京市、武漢市、青島市から計70名の高校生が来日し、日本の高校生70名と親交を深めました。「日中交流集中月間」にあたる10月9日（日）～17日（月）、日本の高校生70名が同3市を訪れ、中国の高校生と再会し友情をいっそう深めます。

10月15日（土）の「中国北京市密雲植樹」には、北京市で交流中の日中の高校生計60名が、翌16日（日）の武漢市の小中学校への太陽光発電システムの寄贈式には、武漢市で交流中の高校生計40名が参加する予定です。

【「日本 中国 ティーンエイジ アンバサダー」について】

期 間：2016年10月9日（日）～17日（月）

訪問都市：北京市、武漢市、青島市

参加者：中国（北京市、武漢市、青島市）の高校生 計70名

日本（東京都、千葉県、大分県、北海道）の高校生 計70名

以上